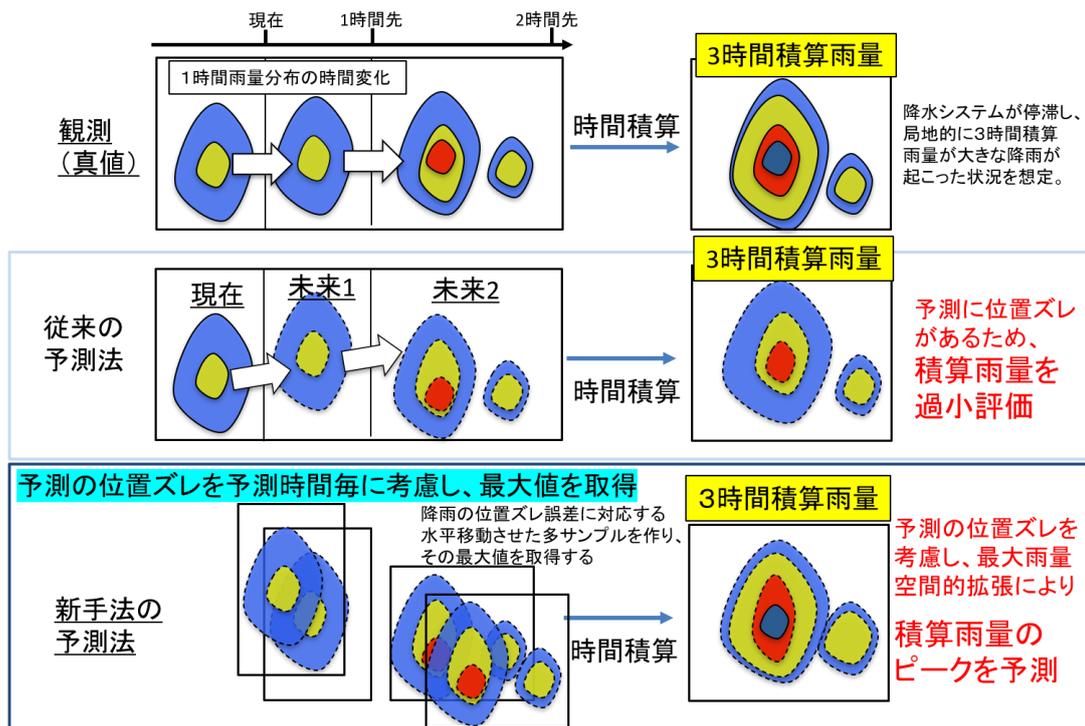


線状降水帯に伴う集中豪雨等に対して、①災害に直結する積算雨量の最大値を高精度に予測し、②予測された雨量を再現期間（降雨の稀さの指標）に変換し、数十年に一度のような大雨の予測分布を提供できます。

発明のポイント

線状降水帯に伴う集中豪雨等に対しては、時間積算した降水量（積算雨量）の最大値を高精度に予測することが、災害予測の観点で重要である。その際、降雨予測の瞬間強度を正しく予測できても、位置ズレがあると積算雨量を正しく予測できない。従来技術は予測の位置ズレを考慮した雨量補正の機能がなく、積算雨量の最大値が過小評価されていた。本特許は、降雨予測の誤差統計解析に基づく雨量補正（位置ズレ補正）機能を実装し、積算雨量の最大値の予測精度を向上させた（下図）。さらに得られた積算雨量を再現期間に変換することで、定量的雨量情報だけでなく、数十年に一度の大雨が起こりえる危機的状況であることを明示することが可能となる。



従来技術との比較

1. 予報誤差統計に基づく位置ズレ誤差推定技術
2. 予測誤差情報に基づく最大積算雨量推定技術
3. 再現期間への変換技術
4. 防災科研特許技術のブレンド予測の拡張版

利用分野

1. 特別警報級の災害発生前の事前対応
2. 避難地域の特定制と避難所設定を支援
3. 二次災害防止、災害現場の安全管理